1993年 11月15日発行（隔月奇数月発刊）　点訳通信１２・１３合併号

点訳通信 第１２・３号

盲人情報文化センター
〒550　大阪市西区
江戸堀1-13-2
TEL 06-441-0015

私の点訳ライフ

点字にのめり込んでしまった私

雀部喜久子

私は十数年前、子供たちも高校・中学に行くようになり自分の時間をどの様に使うか、自分のため　家族のため　自分の関係の有るところにだけ使っていいのだろうか、やはり自分の出来る事で社会にお返しをしていかねばと考えている時、朝日カルチャーで点字の講座がある事を知り、これならばわたしにも出来るのではと受講する事にしました。マスあけ等いろいろの約束ごとに戸惑いながら、まあ覚えるより慣れれば何とかなるさと生来の気楽さで点字と付き合い始めました。

講座終了後、情報センターに入れて頂き今日にいたっております。点字板・タイプの時はぼちぼちとやってきましたがコンピューターになってからは本の下読みもせずいきなり入力、ついつい時間のたつのも忘れてしまいます。もう夕食の準備の時間だ、あとちょっとだけ、この区切りまで、あとここまでといっこうに椅子から立ち上がられず、チンコーン　あっ　おかえりなさい。ゴメンまだ御飯できてないわー　と手抜きの夕食となる。いろいろの用事で家にいる事の少ないわたしですので家にいる時は四角い部屋も丸く掃き、主婦業の手抜きでコンピューターとの向かい合いを楽しんでいます。ただし人名をしらべるのには苦労していますが。何か社会にお役に立てるならばと始めた点字ですが、すっかりとりこになりいろいろな本との出会いを楽しんでいるこの頃です。（ささべ　きくこ）

私 の 点 訳 ラ イ フ

点字とともに

林　美緒

思いもかけず、大阪へ引っ越して来て、夫や娘達は仕事に学校にと忙しい毎日、さて私は？となると近所づきあいもなく、友達もいない。そんな時、吹田市の点訳講習会を知り点字のテの字も知らないまゝ、たゞ本が好きと云うだけで門をたたきました。家でできる事であるということと、人一倍の根気？で講習会終了後サークルに入会し、活動しながら情文の講習を受け、良き先生良き仲間に恵まれ今日に至っています。点字板から点字タイプライター、パソコンと器具だけは進歩しましたが、何でもわかちがきで読むくせがつき、情文へ通う電車の中の吊り広告を見てはニヤリとしたり、ハテなと首をかしげ、困ると諸先輩にお尋ねし勉強熱心な（？）私です。すっかり生活の一部となった感じの点訳とは長いおつきあいにしたいものです。　（はやし　みお）

点訳Ｑ＆Ａ

Q　表記辞典のことでおたずねします。

表記辞典では、『其の際』は切り『此の際』はつづいています。『この際』には、こういう場合、この機会に、という意味で使う場合のほか、そのときを『其の際』というのと同じように、このときという意味で使う場合があると思います。そんなときは『其の際』と同じように、切る方がいいのではないかと思いますが、やはりつづけるのでしょうか。

A　表記辞典には例が出ていませんが、コノ◇サイと切る場合もあります。例をあげますと、

１９××年○○でオリンピックが開かれた。彼女は此の際出場した選手の一人である。

この場合の“此の際”は“このとき”という意味ですから切ります。

点訳Q＆A

Q 簡単な図形の載った本がありますので、グラフィック機能を使って図を描いてみたいと思います。何か注意することがありましたら教えて下さい。

A コンピュータで図形が描けるようになるとは随分進歩したものだと思います。以前は、「文章化出来るものは文章で表現する」、又「本文中の文章で十分理解できるから」という理由で、一般書の図はほとんど省略されてきました。しかし最近は、「文章を頼りに図を触読して、次第に図に慣れていくことも大事だ」と言う考え方も出てきました。たいへん積極的な意見で、将来はこういう流れに向かっていく事でしょうが、だからといって原本の図をそのままの形で点字の図にするということは出来ません。何故でしょう？

私達晴眼者が一枚の図を見るときどうするかを思い浮かべて下さい。図を視読するとき、先ず図全体が目に入ります。そして、そこにどんなものが描かれているかを大ざっぱにつかみ、それから細部に注意がいきます。

これに対して、視覚障害者が触読する場合は、ある部分から始めて順に線をたどる、その作業を繰り返して初めて全体を把握するというプロセスをとります。これが触読と視読の根本的な相違です。ここのところを十分理解して図の大きさ、図と図の間隔、線と線の間隔、文字の入れ方・場所、ときには、図の意図を読み取って複雑な図を思いきった省略で簡潔な図にするなど、図を描くにあたってはある程度の経験が必要です。

図を描いてみようと思われるときは、簡単な図だからと安易に考えず、必ず経験のある人の意見を聞いてからとりかかって下さい。

近々“図や表の処理の仕方”の勉強会を開きたいと思います。

Q　頁替えをしない見出しのとき、見出しの前は１行あけと２行あけ、どちらがよいでしょうか。

A　どちらにするという決まりはありません。その本により適切な方を選んで下さい。１行あけてあれば十分なときもありますし、中に挿入文があったりすると、２行あけた方がよい場合もあります。

Q　「勉強させる」と「答えさせる」はどちらも“させる”がついています前者の“させる”は切り、後者の“させる”は続けるということですがその区別の仕方を教えて下さい。

A　“させる”には、動詞の“させる”と助動詞の“させる”があります。動詞の“させる”は“する”と同様に、「勉強」「運動」「びっくり」などの名詞や「はっきり」「すっきり」などの副詞につくときは切ります。助動詞の“させる”は動詞につきます。付属語ですから前の語に続けます。ご質問の「答えさせる」は「答える」という動詞に助動詞“させる”がついたものですから続けます。「感じさせる」「食べさせる」も同様です。

Q　ルビの間違いは点訳者がかってに訂正して書いてもいいでしょうか？

A　最近、ルビが間違っていると良く指摘されます。ルビを著者が付けるのではなく、出版社のアルバイトが付けるケースがあるとかで、専門書でもよくルビのミスが目立つ本もあるようです。しかし、ルビを簡単に間違いとして訂正して書くのは慎重にすべきでしょう、広辞苑に違う読みが載っていて、他の辞書にもルビの読みがないからと簡単に訂正すると、実はその分野の辞書には読み方としてある場合があります。

最近の例で、中国医学の関係の本で、「相生」に「ソウセイ」とルビがあり、広辞苑などには「ソウショウ」しかないので、間違いとして訂正したところ、後に三療関係の辞書には「ソウセイ」の読みも載っていたケースもあります。

ルビの間違いとして訂正する時には、より慎重にする必要があるでしょう。

私の迷った点訳ルール

ペア校正、グループ校正、二次校正を始めて気になったマスアケの間違いを自分のミスも含めて取り上げたいと思います。（Ａさんの巻　その１）

o 家代々　（イエ◇ダイダイ）
o 億単位（オクタンイ）
o 男同士（オトコドーシ）
o 面白半分（オモシロハンブン）
o この間（コノ◇カン）
o ５０年配（数５０◇ネンパイ）
o キャッチボール（キャッチ◇ボール）
o バスケットボール（バスケットボール）
o 参加校数（サンカコースー）
o 式進行（シキ◇シンコー）
o しょうがない（ショーガナイ）
　しようがない（ショーガ◇ナイ）
o 全図書館（ゼントショカン）
　　全◇労働◇組合　全◇６巻
o 手当たり次第（テアタリシダイ）
o 八の字（ハチノ◇ジ）
　八の字ひげ（ハチノジヒゲ）
o ひとつ屋根の下（ヒトツ◇ヤネノ◇シタ）
o 火の玉
　　［例］　（ヒノ◇タマ）地球は昔「火の玉」だった。
　　（ヒノタマ）　ゆうべ竹やぶで火の玉を見た。
　　→鬼火、ひとだまの意の時は続く。

o ～編（～ヘン）
　　［例］　日本編　西洋編　東洋編　山田◇太郎◇編
o まん中あたり（マンナカ◇アタリ）
o 連合国軍（レンゴーコクグン）
◎次のような例は２拍なので続けてしまいがちですが、この場合は切ります。
　　［例］　こうこうこうと説明する　（コー◇コー◇コート◇）
　　見ろ見ろ、すごいぞ　（ミロ◇ミロ、◇）
◎複合名詞は２拍、３拍できれつづきを考えますが、他の言葉については必ずし

もそうではないのです。

なげきかなしんだ　　（ナゲキカナシンダ）
薄ら寒い　　（ウスラサムイ）

［係から］表記辞典を購入された場合は、「表記辞典運用表」にあわせ一部中身を訂正してから利用して下さい。運用表をお持ちでない方は係まで。

数符を使うか、カナにするか。－それが問題

原本の流れにのみこまれると、つい「カナ」にしたくなるものですが、ここは、点訳という距離をおいて考えてみましょう。

二酸化炭素（＊２サンカ◇タンソ）
１因（数１(ﾂﾅｷﾞ)イン）…一員は、「イチイン」
３振（数３シン、ダツ◇数３シン）
一色（イッショク）応援席は阪神一色（ハンシン◇イッショク）
白一色（シロ◇数１ショク）
一種　遊びの一種（数１シュ）　一種の遊びだよ（イッシュ）
一辺（一度の意）（数１ぺん）　一例（数１(ﾂﾅｷﾞ)レイ）

・私（ワタクシ、ワタシ）・他（タ、ホカ）・余（ヨ、アマリ）
・行く（イク、ユク）・等（トー、ナド）

結構迷う言葉です。その本の持ち味、ニュアンス、流れなどに気をつけて迷った時は、最初のうちに第三者に聞いてみるといいでしょう。声を出して読んでみるといいかもしれません。あんがい、本人の思いこみがあります。

・くだけた本なのに「ワタクシ」で通すと、あとで訂正が大変です。
・「行く」は、まず、「イク」で読んでみて、不自然な場合のみ、「ユク」にする程度でよいと思います。「行く末」（ゆくすえ）など音読するのも一つの方法でしょう。
・「余」はどちらでもよいことが多いですが、かたい内容の本では、「ヨ」の方がすっきりするようです。
・「他」は前後の文にもよりますが、例えば「あなたや、他の人に聞くと……」　「もっと他の所を捜してみたら」という場合は「ほか」の方がいいように思　えます。

！、？のあと１マスか２マスか。文の途中であれば、１マスあけですが、
いったん文が切れる場は、２マスあけです。

［例］神よ！　助けたまえ。（カミヨ！◇◇タスケタマエ。）
あっ！と叫んだ。　（アッ！◇ト◇サケンダ。）
新しい本を点訳する時、ペラペラと全体を見て何種類の
カギ、カッコが使ってあるか調べましょう。

１番多いのは「　」、（　）ですが、その他に“　”でのかこみなどがあれば、それは第２カギにします。（区別する必要がなければ、“　”も「　」を使ってよい。）　よく第１指示符（(5､3･6)～(3･6､2)）を使用している場合がありますが、これは、試験問題の強調部分や何種類ものカギ類を区別する必要がある場合に使い、小説などの中で用いるときは、よく考えてからにしましょう。。

下調べ辞書　追加データ　ニュース

－操作方法は簡単です、ぜひ使って下さい－

『戦国人名辞典』の入力が終わり、現在校正中です。その内、タ行のデータはすでに校正が終わり「読み方調べ」に登録されています。徳川一族や豊臣一族も登録され戦国時代の人名の検索が便利になると思われます。次回『点訳通信』が出る頃にはすべての登録が終わる予定です。

また、日本史用語の登録も進んでいます。歴史関係の図書を点訳されている方は、ぜひご利用下さい。

◇地名
現在の郡名、市区町村名
漢字で書かれた国名・都市名

◇人名
戦国人名（タ行）劇画家名／相撲人名／天皇名／漢字で書かれた外国人名／現在の閣僚名簿／現在の衆院･常任･特別委員長／外国駐在大使名

◇その他固有名詞
駅名（約 9,000件）／山名

◇その他
元号名／年中行事／漢方医学関係用語／植物名（花の名前を中心に）／鉱物名／四字熟語（1098件）／馬術用語（370件）

ほっとする前にもう一仕事を！

自分の入力したデータも、ペアやグループなどでの校正を経て、その結果を見ながらの修正も終わると、「できたー！！」というわけで、〈保存〉をするわけですが、その前にもう一仕事お願いします。

それは、レイアウト上の最終チェックです。見出しがページ末になっていないか、大見出し・中見出し・小見出しの行頭のマスアケは統一されているか、見出しと見出しの間の形式は統一されているか、などです。

カーソルを本文の1ページに戻し（機械ページの1ページではありません）、最終チェックを初めて下さい。

ＢＥ　では、「青＋Ｆ11」で次の見出しまでジャンプしますし、ＢＡＳＥでは「[SHIFT] ＋アンダーラインキー」で次の見出しまでジャンプします。また、前の見出し位置まで戻るには、ＢＥ　では「赤＋青＋Ｆ11」で、ＢＡＳＥでは「[SHIFT] ＋大カッコ開きのキー」でできます。

これは、ＢＥ　ＢＡＳＥ　いずれも、行頭4マス以上空いている行をサーチしていますので、見出し以外でも行頭が4マス以上空いていればその行を見出しと間違えて、そこで停まりますから、その点は注意して下さい。

この作業をしていて、もし見出しの位置が変わったような場合には、最後に目次のページ数チェックもお忘れなく。

ＢＡＳＥ　では空行を検索する事もできますので、この機能も活用できます。「Ｆ6」で検索モードに入って、検索文字列を入力しないで「リターンキー」を押し、「[SHIFT] ＋ロールダウンキー」で空行をサーチしてくれます。

それから、これはＢＡＳＥ　だけの問題なのですが、次の行の行頭の言葉が入るのに上がっていないケースがあります。これも最終的にチェックして整えて下さい。これは、「[SHIFT] ＋Ｚキー」でできます。この「[SHIFT] ＋Ｚキー」では、ＢＡＳＥ　がもっているチェックリストに引っかかるような個所でいちいち停まりますが、停まった個所を見て修正の必要がなければそのまま同じ操作を繰り返して下さい。行末の何もないところでカーソルが停まった場合、そこに次の行の言葉が入るという意味です。

以上のような点検が全部すんだら、本当に出来上がりです。

置換（ＢＡＳＥの場合）

１）［ＳＨＩＦＴ］＋［ｆ６］

２）［検索文字列：◇］が表示されます。

３）検索する文字を入力します→［わたし］＋［改行］

４）［置換文字列：◇］が表示されます。

５）置換する文字を入力します。→［わたくし］＋［改行］

６）全部一度に置換しますか？［Ｙ／Ｎ］

７）［Ｙ］または［Ｎ］を押します。→［Ｙ］を押すと不必要な語句も変換するおそれがあります。

［Ｙ］を押した場合。

対象となる語「わたし」をすべて「わたくし」に置換し、［○○個の文字列を置換しました］と表示されます。

［Ｎ］を押した場合。

対象語の所にカーソルがとんで行き、［Ｙ／Ｎ］の表示が出ます。置換するときは［Ｙ］、しないときは［Ｎ］を押します。全部の語を検索終了すると［○○個の文字列を置換しました］という表示が出て作業を終了します。

８）［○○個の文字列を置換しました］と表示されます

〈注意点〉

①置換する文字列が２桁以上ある場合に実行して下さい。少ない場合は検索（点訳通信第６号９頁検索参照）をしながら修正した方が良いでしょう。

②［Ｙ］を押し、全部一度に置換すると思わぬ所まで置換してしまいます。

［例］わたし→わたくし　手渡し（てわたし）→　てわたくし

見渡し（みわたし）→みわたくし…

③文字数が同じであれば問題はありませんが、３文字と４文字では行数が増える可能性があります。１巻分ともなればページ数にも影響します。

※最終チェックの留意点（置換等修正後）

①目次ページ数と本文ページ数の確認…［ｆ３］指定頁の移動（点訳通信第４ p14 カーソルの移動参照）により確認・修正する。

②見出し・巻末処理・奥付け・ページ付は正しく行われているか？　［ｆ３］・［ｆ４］・［ｆ５］・［ＳＨＩＦＴ］＋［ｆ４］・［ＳＨＩＦＴ］＋［ｆ５］のカーソル移動　［ｆ７］行削除　［ＳＨＩＦＴ］＋［ｆ１０］行挿入　［ＳＨＩＦＴ］＋［ｆ３］ページ付
③マス付けによるマス空けの確認　［ＨＥＬＰ］＋［ｆ４］

（以上、木下正義さんから原稿をいただきました。）

⊗　掲　示　板　⊗

・『読み方調べ』がようやく実用的なものになってきました。すべてのものの読み方が分かるわけではありませんが、分野を決めて検索していただければ結構役立つものと思います。

・てんやく広場が新しく生まれ変わります。今まで４１の加盟館で構成されていましたが、広く公共図書館や未加盟の点字図書館などに呼びかけて、視覚障害者のサービスをおこなっている団体・施設の相互協力を今以上に押し進める予定です。また、点字データに限らず、録音目録や点字出版目録などを載せ、利用者に本当に役立つシステムに衣替えする作業が進んでいます。
　それに伴い、１２月より視覚障害者も直接アクセスできるようになり、ますます便利になります。

・付録に木下正義さん作成のＢＡＳＥのファンクション・キーの使い方、カーソルの移動キーの使い方など付けました。パソコンの横においてご利用下さい。

・皆さまのご意見をお待ちしています。３階、点字フロアーの「意見箱」までお寄せ下さい。

⊗　～自由に記入して下さい。６時間たった場合は消すことも!～⊗

【カーソル移動】

１行　上に	↑
１行　下に	↓
１文字右に	→
１文字左に	←
１語右に	［Ｃ］＋Ｆ
１語左に	［Ｃ］＋Ａ
１ページ戻る	［ｆ・４］
１ページ進む	［ｆ・５］
行の右端に	［Ｓ］＋→
行の左端に	［Ｓ］＋←
データの先頭に	［Ｓ］＋［ｆ・４］
データの最後に	［Ｓ］＋［ｆ・５］
連続スクロール	［ＵＰ］・［ＤＯＷＮ］
次行先頭に	［リターンキー］
指定ページに	［ｆ・３］
ページの先頭・ 最後交互に	［ＨＯＭＥＣＬＲ］
画面最終行に	［Ｓ］＋［ＨＯＭＥ］
ページの先頭に	［Ｃ］＋ＱＥ
ページの最後に	［Ｃ］＋ＱＸ
指定行へ	［Ｓ］＋ＱＫ

＊　［Ｓ］は［ＳＨＩＦＴ］

＊　［Ｃ］は［ＣＴＲＬ］

【削除】

カーソル位置の左１文字	［ＢＳ］
カーソル位置の文字	［ＤＥＬ］
１行（同時記憶）	［ｆ・７］
ページ行の内容	［Ｃ］＋［ｆ・３］
カーソル位置の単語	［Ｃ ］＋Ｔ
ファイル	［Ｃ］＋［ｆ・６］
カーソルの右側	［Ｃ］＋ＱＵ
カーソルの左側	［Ｃ］＋ＱＴ
行記憶内容	［Ｃ］＋［ｆ・７］

【挿入】

挿入・上書切替	［ＩＮＳ］

１マス	スペースキー
１行空白	［Ｓ］＋［ｆ・１０］
短文の呼出	［Ｓ］＋［ｆ・９］

【その他】

点字・カナ表示切替	［ｆ・２］
ページ番号付け	［Ｓ］＋［ｆ・３］
検索	［ｆ・６］
置換	［Ｓ］＋［ｆ・６］
短文登録	［Ｓ］＋［ｆ・８］
画面行数切替	［Ｃ］＋［ｆ・１０］
画面マス付け・なし	［ＨＥＬＰ］［ｆ・４］
簡易データチェック	［Ｓ］＋Ｚ

ＢＡＳＥ　Ｆ．１　Ｆ．２　Ｆ．３　Ｆ．４　Ｆ．５　Ｆ．６　Ｆ．７　Ｆ．８　Ｆ．９　Ｆ．１０
保管　カナ点　頁移動　前頁　次頁　検索　行削除　行記憶　行呼出　６点式
データの保管　点字・ｶﾅ表示切替　指定頁ﾍﾉ移動　前頁への移動　次頁への移動　検索文字入力実行　１行削除（記憶）　１行記憶　記憶行呼出　ﾛｰﾏｼﾞ英数ｶﾅ
ＳＨＩＦＴ　説明　ＮＢカナ　頁付　先頭頁　最終頁　置換　行記消　短文録　短文呼　行挿入
＋　操作説明表示　NABCCｶﾅ表示切替　頁番号付け　先頭頁ﾍﾉ移動　最終頁ﾍﾉ移動　置換文字入力実行　行記憶削除　短文の登録　短文の呼出挿入　空白行の挿入

ＣＴＲＬ　書出　差込　頁番消　目次作　ＴＤＣ　Ｆ削除　目録　検設定　画面替
＋　データの部分保管　データの部分読込　頁番号の削除　bndx目次作成　ＴＤＣの実行　ファイル削除　原本の目録入力　ｶｰｿﾙ文字取込　25　20行切替
［ＥＳＣ］
Ｓ：保管　Ｏ：新規　Ｒ：差込　Ｗ：書出　Ｋ：カナ書出　Ｘ：行変換　Ｍ：目録　Ｅ：MS-DOS　Ｐ：印刷　Ｑ：終了
編集　ファイル　データ　データ　かなﾌｧｲﾙ　編集中　編集
データ　オープン　部分　部分　書出　データ　終了
保管　読込　保管　行数変換